

永遠の安息：死者の日とモーツァルトのレクイエム

日時：2024年11月2日(土)14時開演(13時30分開場)

場所：聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所聖堂

J.S.バッハ

パルティータ イ短調 BWV 1013(ヴァイオリン独奏)

装え、愛する魂よ BWV 654(オルガン独奏)

W.A.モーツァルト

レクイエム KV.626

アヴェ ヴェルム コルプス KV.618

ソプラノ：山田 英津子

アルト：古賀 裕子

テノール：長尾 隆央

バリトン：北村 哲朗

ヴァイオリン独奏：小山 啓久

オルガン独奏：岩崎 真実子

指揮：牧野 成史

合唱：所沢バッハ・アカデミー・横浜モーツァルト・アカデミー

管弦楽：シャッツ カンマーアンサンブル

入場料3,500円 全席自由130席限定

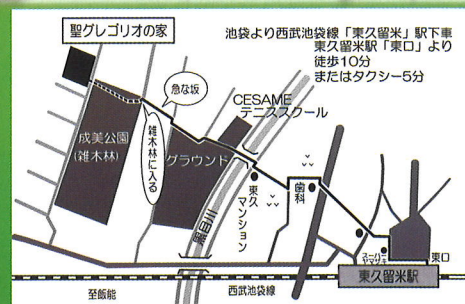
お問い合わせ・チケットお申込み：

聖グレゴリオの家 〒203-0004 東久留米市冰川台2-7-12

TEL:042-474-8915 FAX:042-474-8832

ホームページ：<https://st-gregorio.or.jp>

※お電話にて、または「お名前、ご住所、枚数」をご記入の上、FAXでお申し込みください。チケットをお送りします。また、聖グレゴリオの家ホームページの「お問い合わせ」からもお申し込みいただけます。





牧野 成史 指揮

宗教音楽家・オペラ歌手としてドイツ・オーストリアで20年近く活躍。

武蔵野音楽大学、ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学を経てスイス・バーゼル音楽大学を首席で卒業、声楽および室内楽の国家演奏家資格を習得。

声楽をクルト・ヴァイダー、エリザベート・シュヴァルツコップ、宗教音楽をエルンスト・ヒンライナー、モーツァルト演奏法をアントン・ダヴィッドヴィッチ、指揮をヤノシュ・ツィフラ、各氏に師事。ザルツブルグ大聖堂首席ソリストを長く勤め、ミサ曲・オラトリオに広いレパートリーを持つ。またハンブルク国立歌劇場と専属・客演契約するなど数多くのオペラに出演。94年から指揮者活動を開始、ザルツブルグ大聖堂・同フランスカーナ教会で多数客演し、帰邦してからは所沢・横浜両アカデミーで多くのオラトリオ・ミサ曲を演奏。日本で知られない楽曲の紹介にも積極的で、ギルマン・オルガン協奏曲、ラインベルガー・オルガン協奏曲第1番、ミヒャエル・ハイドン・ヴァイオリン協奏曲(MH207)、ヨーゼフ・メスナーの作品群を日本初演、活動が評価され、国際ヨーゼフ・メスナー協会(奥)の特別会員に迎えられた。ウィーン古典派は得意分野であり、先日ハイドン ミサ曲全曲演奏を完了した。

現在ザルツブルク フランスカーナ教会客員指揮者、聖グレゴリオの家宗教音楽研究所講師。

所沢バッハ・アカデミー 合唱

帰邦した牧野成史(ザルツブルグ大聖堂専属ソリスト・同客演指揮者)を中心に1997年に設立された演奏・研究団体(所沢バッハアカデミー)の合唱団。約30人の混声合唱。音楽監督の牧野成史が自ら常任指揮として指導し高い演奏技術を維持している。

また小川素子(ザルツブルグ フランスカーナ教会専属ソリスト)を発声指導に招き個々のレベルも高い。バッハだけでなくモーツァルト、ハイドンで定評があり、レパートリーはヘンデル、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーン、ブラームスと幅広い。2007年2月にペーター・シュライヤー指揮のアンサンブル金沢東京公演(サントリー・ホール)でモーツァルトレクイエムを演奏し脚光を浴びた。

当初同アカデミーは合唱団のみの組織での発足し、現在はほかに管弦楽団、音楽教室(声楽、等)、事務局で構成され幅広く活動している。



岩崎 真実子 オルガン

東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻に入学。秋本道雄、広野嗣雄両氏に師事。在学中に「藝大バッハカンタータ・クラブ」立ち上げにわり、小林道夫氏のもとでバッハのカンタータ、器楽曲の通奏低音を学ぶ。卒業後、米国ボストンにあるニュー・イングランド音楽院大学院修士課程に留学。林佑子氏に師事。1976年に卒業、帰国。母校である立教女学院オルガニストに就任し、現在に至る。国際基督教大学オルガニスト及び国際基督教大学宗教音楽センターの講師を務めてきた。2011-2012、日本オルガン研究会会長。現在日本オルガン協会会長。

今年秋に聖グレゴリオの家宗教音楽研究所所長に就任。オルガンCD「装え、愛する魂よ」「暁の空の美しい星よ」「主の祈り」「オルガン・デュオ」(2010年9月「レコード芸術」特選盤)「バビロンの流れのほとりに」をリリースしている。

ヴァイオリン独奏・コンサートマスター 小山 啓久

東京音楽大学を卒業後E.グラーチ氏、K.グントナー氏に師事する。

現在、数々のオペラ・オーケストラ公演におけるコンサートマスターや内外でのソロ・室内楽での活動、マスタークラスでの指導、コンクール審査等を務めている。

東京21世紀管弦楽団コンサートマスター。日本弦楽指導者協会 正会員。とちぎ未来大使。

宇都宮短期大学音楽科、及び同附属高等学校音楽科講師。



山田 英津子 ソプラノ

桐朋学園大学声楽専攻卒業。同大学研究科修了。第13回日本声楽コンクール第1位。奥田良三賞、日本R.シュトラウス協会賞を合わせて受賞。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。

透明感溢れる美声に加え豊かな表現力から生まれる音楽は常に聴く者の心を捉えており、「フィガロの結婚」「こもり」「魔弾の射手」等のオペラやモーツァルト、バッハ、ハイドン等の宗教曲、ベートーヴェン、R.シュトラウス、マーラー等コンサートソリストとして活躍。CDリリースとして「アヴェ・マリア」「マドンナの宝石」「Grace Voice」がある。

アルト 古賀 裕子

明治学院大学文学部心理学科卒業。2005年東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。井形景紀、岡崎實俊、平松英子、岩淵嘉瑩の各氏に師事。これまでにバッハ『マタイ受難曲』『ヨハネ受難曲』、モーツァルト『ハ短調ミサ』『レクイエム』、ペルゴレージ『スターバト・マーテル』、ヘンデル『メサイア』などのソリストを務める。



長尾 隆央 テノール

青森市出身。国立音楽大学声楽科卒業、同大学院歌曲科ドイツ歌曲専攻修了。大学院修了時、大学院新人演奏会、青森県同調会新人演奏会に出演。辻村成子、久岡昇、竹内則雄、牧野成史の各氏に師事。これまでに、バッハ『ヨハネ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、ハイドン『天地創造』、モーツァルト『レクイエム』、『戴冠ミサ』、『孤児院ミサ』、ベートーヴェン『交響曲第九番』、オペラにおいては『魔笛』タミーノ役、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトに出演し、ドイツ・ヴァルトクライブルク、及びミュンヘンの劇場にてブッチーゴ『蝶々夫人』コロ役でヨーロッパデビュー。

コンサート、ヴォイストレーニング、合唱指揮など活躍の場を広げている。男声カルテット「エレガントノーツ」メンバー。

バリトン 北村 哲朗

東京藝術大学声楽科、同大学院独唱科首席卒業。声楽を藤沼昭彦、中山悌一、L.ベルタニョリオ、K.ヴァイダー、H.ホッター、T.アダム各氏より薫陶を受ける。1989年、ドレスデン国立音楽大学へ留学。卒業と同時にゲルリッツ歌劇場と専属契約、「カルメン」エスカミーリョ役でデビュー。1993年ドイツ国家演奏家資格最優秀取得。国立マリポーロ歌劇場において「椿姫」のジェルモン役で出演。

現在、国内外で、リサイタル及びオペラ、宗教曲のソロ活動を行っている。二期会会員。



聖グレゴリオの家は、1979年に独立宗教法人として故ゲレオン・ゴールドマン神父(フランシスコ会)によって設立され、祈り、研究、教育という3本の柱から成り立っています。その目的は、祈り、典礼を祝いながら、教会音楽の研究、保存と普及、教育を行うことにあります。

【聖グレゴリオの家賛助会】故ゲレオン・ゴールドマン神父によって創設された当研究所は、神父の母国ドイツや諸外国から物心両面の支援に頼って参りました。しかしながらゲレオン神父の帰天と援助をしてくださった方の高齢化、世代交代に伴い、その支援は必然的に細りつつあります。海外の支援に頼るのではなく日本社会の中で聖グレゴリオの家の活動を支えていただくために賛助会は2009年に発足しました。